

小学校外国語活動の教科化・低学年化に対する小学校教員の不安

教育デザインコース 英語領域

藤原 剛

1. はじめに

本研究は、小学校外国語活動の教科化・低学年に対して、小学校教員はどのような不安を感じているかを明らかにし、現場での教員研修のあり方について提案することを目的としている。

先行研究で主に用いられてきた意識調査の質問形式は主に多肢選択式が多く、質問項目が調査側の視点や思いに偏る傾向がある（米崎,2015）ため、本研究では自由記述式も採用し、教員の心情をそのまま表現できるように工夫した。

2. 先行研究

これまでの外国語不安は、外国語学習者を対象に研究が進められてきたが、教員自身も外国語不安を経験する。（Horwitz, 1996; Suzuki & Roger, 2014）。教員の外国語不安は、教員としての自信や指導法、目標言語の使用度に影響を与える。外国語不安と言語教員の認知は深く関わっており、外国語不安は授業実践に影響を及ぼし、外国語不安によって授業実践が大きく変わってしまう（米崎,2015）。

上記の外国語不安に関する先行研究は、教職専門研修を受け、外国語教員資格を持った教員を対象としたものであり、小学校教員を対象にした先行研究はまだ数少ない。これまでの小学校英語教育に関する小学校教員の意識調査は様々な機関や研究者によって実施されているが、これまでの意識調査は、不安を抱えている教員の比率や教育環境などに対する不安や困難点の把握にとどまっていた（松宮,2013）。

3. 研究の課題

研究目的を明らかにするため、以下のリサーチクエスチョンを設定した。

①小学校教員は教科化および低学年化に対してどのような不安を抱えているのか。

②その不安はこれまでの教員の意識調査で明らかになった不安とどのように異なるのか。

4. KH-Coder を使用したプレテスト分析

プレテストとして、昨年度本学の教員免許講習を受講した小学校教師30名を対象にアンケートを実施した。アンケートには選択式と自由記述欄を設け、自由記述の分析にKH-Coderを使用した。（図1）

KH-Coderとは、立命館大学の樋口一郎氏が開発した無償ダウンロードソフトである。本ソフトを用いることで、自由記述欄を読み込み、計量テキスト分析を通して、小学校教員の外国語活動の教科化および低学年化への不安の構造化を試みた。

計量テキスト分析の結果から、外国語活動の目的に関する疑問、目的をうまく教師がとらえきれない不安が見られた。また、教科化に関する評価、児童の差も不安であることが分かる。

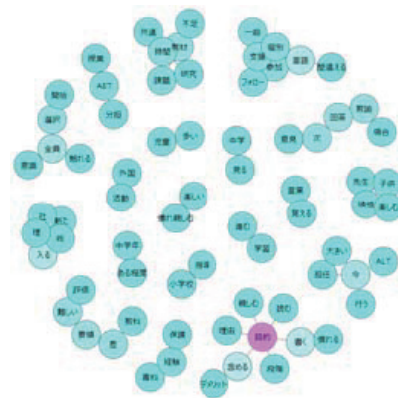


図1：KH-Coderによる計量テキスト分析

5. 今後の展望

プレテストで実施したアンケート分析、計量テキスト分析の結果から質問紙内容を精査し、修士論文へとつなげていきたい。また、多肢選択式の分析に今後はSPSSを用いた統計分析も行っていきたい。